

### 当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所  
解放新聞和歌山支局

〒640-8314  
和歌山市神前 405-3  
TEL 073-473-2301  
FAX 073-473-2302

発行責任者  
藤本哲史

## 女性部・青年部で 合同研修会ひろく

第3回女性部一日研修会を10月20日、和歌山ビッグ愛のりいぶる会議室でおこない各支部から61人が参加した。

開会のあいさつで山本昌代・女性対策部長は、5月にひらかれた全国女性集会で性部長の運動のいきとりの報告があった。



県政報告する藤本眞利子県議

では多くの人が参加し協力してくれたこと、歴代の女性部長の運動のいきとりの報告があった。研修のひとは、長編記録映画「人間みな兄弟」の踊りを坂下君代・副部長が踊り、全員で指導をうけた。

## 石川さんは無実だ!

### 女性部狭山要請行動

部落解放同盟女性運動部が12月6日、狭山要請行動をおこない、和歌山から山本昌代・女性対策部長、坂下君代・副部長・宮本睦・事務局長と事務局が参加した。

冷たい雨が降るなか、東京高等裁判所前に集まった各都府県連の女性たちは、石川一雄さんの無実と再審

開始を求めピラとカイロを配り、そしてマイクで狭山事件の不当裁判について訴えた。マイクの前に立った山



不当裁判を訴える山本女性対策部長



「聖者西光万吉抄」の踊りの指導をうけた



今日の要請行動について話す山崎中央女性運動部長



避難所の配置を学ぶ

さらに、各都府県連のそれぞれ20人の代表が、東京高裁と東京高検に要請行動をおこない、県連女性部からも要請文を提出した。情宣活動と要請行動終了後、中央本部に移動し、片岡明幸・中央執行副委員長より「大詰めを迎えた狭山第3次再審」と題した学習

を行った。午後から青年部20人が参加し、合同で学習をした。藤本眞利子・県議会議員の県政報告では、台風21号で県内は大きな被害をうけ、停電や屋根、ガレージ、窓

をいた。石川さんの無実が証明される5つの新証拠により検察側も追い詰められた。来年、裁判は必ず動きがあると片岡副委員長がのべた。

ガラスの破損など、復旧にかかる補正予算が組まれたことにくわえ、「推進法」についての質問、児童虐待の防止、体罰という名の暴力の根絶について9月議会で質問したことが報告された。つぎに、山本女性対策部長の説明のもと、避難所運営ゲーム「HUG」を約8人のグループでとりくんだ。家が全壊または半壊した家族、病気、障がいのある人、高齢者、子ども、ペットなど、さまざまな家族が避難所にやってくるなか、どう配置すればいいのか話し合った。閉会のあいさつで松井資喜・青年部長は、災害が発生したとき、児童館や文化会館に大勢の人が避難してくる。今日の学習を生かしていきたいと語った。

## 頑健

前回、ローラの署名呼びかけについて書いたが、その関係で「サイレント・マジョリティ」についてふれる。といっても難しいことではない。アイドルグループ「櫻坂(けやきざか)46」の一年半ほどのヒット曲。秋元康が作詞したもので、軍服をイメージさせる衣装での整然と統率されたダンスと歌は、アイドルのイメージとは一線を画するものだが、それがプロデューサー秋元の狙い▼「似たような服を着て、似たような表情で」「先行く人が振り返り、列を乱すなど、ルールを説くけど、その目は死んでいる」前半の歌詞だ。タイトルの「サイレント・マジョリティ」とは「ものを言わぬ静かな多数派」という意味▼考えれば、2015年の夏、「安保関連法案」反対の国会行動に、多くの若者の姿があった。彼らは、SNSなどを駆使して呼びかけ、連日の行動に結集していた。この若者たちの行動を「なにも考えなしに」「遊び半分だ」と批判した大人たちがいたが、では私たち大人は、どれほどなにかを考えて行動しているのだろうか▼今、「ものをいわぬ人びと」は、確実に増えている。若者もそうだ▼「君は君らしく生きていく自由がある」歌詞の後半部分だ。私たちがらしく生きていくこと、そのために今、声を上げ、行動することが大事だと思ふ…

(S・I)